

[引受保険会社]



redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

変額保険 グローバルミックス

四半期運用レポート

2013年1月～2013年3月

[利用する投資信託の委託会社]

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーク・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーク・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーク・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募	
債券 50%			

特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2013年1月～2013年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、上昇し、TOPIX(東証株価指数)は12月末比+20.34%上昇の1,034.71ポイントで終了しました。

1月は、材料出尽くし感から一時調整する局面もありましたが、政府の大規模な緊急経済対策決定や円安進行による企業収益の改善期待などから上昇しました。2月は、日銀総裁の早期辞任表明を受けて円安が進行したことなどから上昇しました。G20(20カ国・地域)財務相・中央銀行総裁会議の共同声明などを受け、円安けん制への警戒感が高まったことやイタリア総選挙の結果などから下落する局面もありましたが、次期日銀正副総裁人事の報道を受けて金融緩和期待が高まったことなどから上昇基調で推移しました。3月は、月前半は、政府のTPP(環太平洋経済連携協定)交渉参加表明や日銀正副総裁人事が国会で同意を得たことなどから上昇し、月後半は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから横ばいで推移しました。

業種別(東証33業種)では、業績改善が好感された「ゴム製品」(12月末比+44.37%)が最も上昇した一方、下落した業種はありませんでした。

【外国株式市場】

米国株式市場は、1月は、「財政の崖」問題が回避されたことなどから上昇しました。2月は、後半イタリア政局の先行き不透明感などにより下落する局面もありましたが、好調な経済指標やFRB(米連邦準備制度理事会)議長が金融緩和に肯定的な考えを示したことなどから上昇しました。3月は、キプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱などから下落する局面もありましたが、雇用統計など経済指標が好調だったことなどを受けて上昇し、NYダウは、12月末比+11.25%上昇の14,578.54ドルで終了しました。

欧州株式市場は、1月は、米国の「財政の崖」問題が回避されたことや欧州金融・財政問題への懸念後退などから上昇しました。2月は、ドイツの景況感改善などが上昇要因となりましたが、イタリアの総選挙結果などを受けて軟調な推移となりました。3月は、米国の景況感の改善などから上昇し、その後キプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱やイタリア政権樹立が難航したことなどから下落しました。市場別騰落率は、英FT100は12月末比+8.71%上昇、仏CAC40は同+2.48%上昇、独DAXは同+2.40%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、1月は順調な国債入札や日銀による追加金融緩和観測の高まりなどから金利は低下(価格は上昇)しました。2月は、株高を背景に金利は上昇(価格は下落)する局面もありましたが、日銀総裁の早期辞任表明、円安の一服や日銀の正副総裁人事の報道を受けて金融緩和への期待が高まったことなどから低下しました。3月も、10年債の低調な入札などから金利が上昇する局面がありましたが、その後キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから金利は低下し、新発10年国債利回りは0.560%となりました(12月末は0.795%)。

日銀は、無担保コール翌日物金利の誘導目標を年0.0~0.1%程度で推移するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、1月は、「財政の崖」問題の回避や良好な雇用統計などから金利は上昇(価格は下落)しました。2月は、イタリア総選挙の結果を受けて先行き不透明感の高まりなどから米国債が買われる展開となり、金利は低下(価格は上昇)しました。3月前半は、雇用統計など経済指標が好調だったことなどから金利は上昇し、後半はキプロス救済計画に対する懸念が高まったことなどから低下しました。米10年国債利回りは、3月末には1.849%となりました(12月末は1.757%)。

欧州債券市場は、1月は、民間銀行がECB(欧州中央銀行)から調達した資金を一部早期返済するという報道などから金利は上昇しました。2月は、ECB総裁のユーロ高注視の発言やイタリア選挙の結果などから金利は低下しました。3月前半は、ECBによる金融緩和への期待の後退などから金利は上昇し、後半は、キプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱やイタリア政権樹立が難航したことなどから低下し、独10年国債利回りは、3月末には1.289%となりました(12月末は1.316%)。

FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECBは政策金利を据え置き、年0.75%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、1月に、「財政の崖」問題の回避や政府が日銀に対して2%の物価目標を定める姿勢を示すなど金融緩和策強化の圧力を強めたこと、2月は日銀総裁の早期辞任表明により金融緩和が前倒しで実施されるとの観測、さらに3月は米国の経済指標が好調だったことなどから、期を通して円安が進行しました。円は対ドルで12月末比7円47銭(8.63%)円安ドル高の1ドル=94円05銭となりました。

ユーロ/円相場は、1月は、欧州債務問題への懸念の後退やECBの利下げ観測後退などから円安が進行しました。2月は、10-12月期のユーロ圏GDPが市場予想以上に落ち込んだことやイタリアの総選挙結果などから円高が進行しました。3月は、前半は、ECBによる金融緩和への期待後退などから円安が進み、後半はキプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱やイタリアの政権樹立が難航したことなどから円高が進行しましたが、円は対ユーロで12月末比6円02銭(5.25%)円安ユーロ高の1ユーロ=120円73銭となりました。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

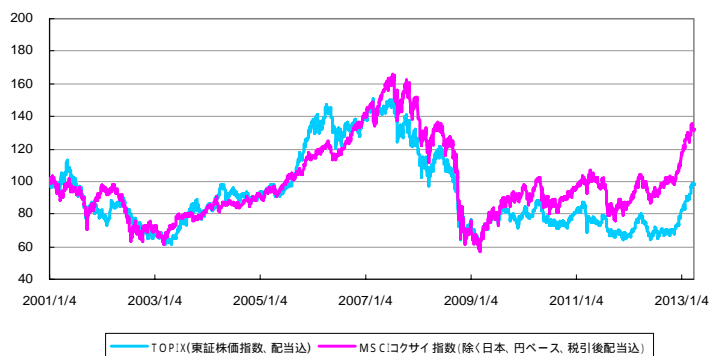
お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

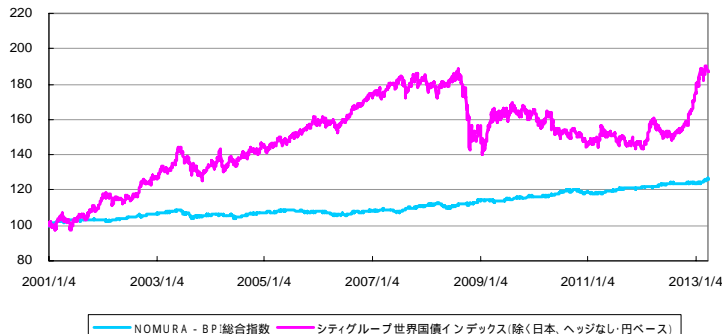
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

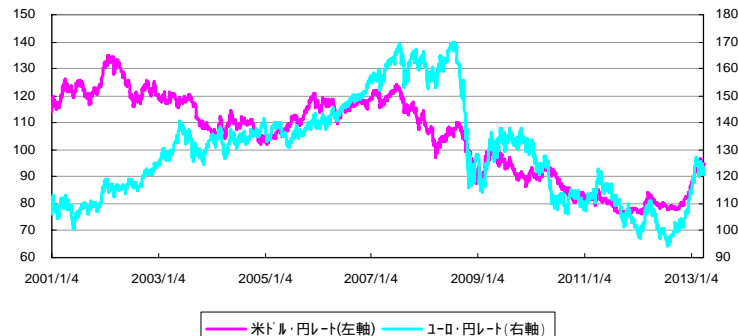


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2013年3月 末日現在]

特別勘定のINDEXの推移

特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2013年3月末	2013年2月末	2013年1月末	2012年12月末	2012年11月末	2012年10月末
INDEX	0.985	0.960	0.950	0.911	0.883	0.872
騰落率(%)	過去1ヵ月 2.65	過去3ヵ月 8.18	過去6ヵ月 13.35	過去1年 10.84	過去3年 12.67	設定来 1.46

特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,321,761	3.5
その他有価証券	36,915,324	96.5
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	3,804,627	10.0
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュウ株式ファンド(B)	5,725,456	15.0
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	5,774,766	15.1
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	3,743,776	9.8
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	17,866,697	46.7
合計	38,237,086	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。
資産配分に関しては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)
今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

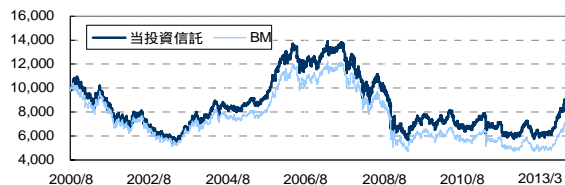
特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	6.70%	20.89%	44.03%	23.83%	11.51%	11.29%
BM	6.05%	20.34%	40.31%	21.11%	5.71%	30.21%
差	0.65%	0.55%	3.72%	2.72%	5.80%	18.92%

マザーファンド受益証券の詳細情報

業種別構成比率	マザーファンド
1 銀行業	12.55%
2 輸送用機器	11.63%
3 電気機器	10.75%
4 卸売業	7.96%
5 情報・通信業	5.97%
6 陸運業	4.88%
7 医薬品	4.73%
8 化学	4.58%
9 その他業種	35.17%
10 現金等	1.78%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.30%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.89%
3 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.64%
4 本田技研工業	輸送用機器	2.51%
5 日本電信電話	情報・通信業	1.84%
6 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.54%
7 キヤノン	電気機器	1.41%
8 ソフトバンク	情報・通信業	1.20%
9 武田薬品工業	医薬品	1.17%
10 三菱商事	卸売業	1.16%
合計		21.64%
組入銘柄数		245銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+20.89%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+20.34%となりました。当期の日本株式市場では、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託はこれらの銘柄を少なめに保有していたことはマイナスへの寄与となりました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落したITソフトウェアおよび機械を少なめに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した建設および総合商社を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇した小森コーポレーション(6349)およびゲオホールディングス(2681)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した太平洋工業(1819)および東洋鋼鈑(5453)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	95.02%
2 大阪証券取引所第一部	3.20%
3 現金等	1.78%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

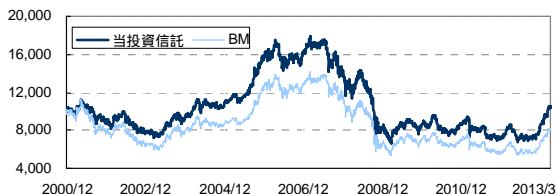
特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	7.47%	22.92%	44.25%	23.05%	11.83%	4.16%
BM	6.05%	20.34%	40.31%	21.11%	5.71%	19.75%
差	1.42%	2.57%	3.93%	1.94%	6.12%	23.91%

マザーファンド受益証券の詳細情報 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 銀行業	13.93%
2 輸送用機器	12.60%
3 卸売業	9.89%
4 情報・通信業	8.88%
5 電気機器	6.00%
6 医薬品	5.32%
7 化学	5.21%
8 陸運業	4.90%
9 その他業種	28.44%
10 現金等	4.82%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.85%
2 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.83%
3 本田技研工業	輸送用機器	3.13%
4 日本電信電話	情報・通信業	3.13%
5 KDDI	情報・通信業	2.97%
6 キヤノン	電気機器	2.90%
7 大塚ホールディングス	医薬品	2.73%
8 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	2.72%
9 日産自動車	輸送用機器	2.69%
10 東海旅客鉄道	陸運業	2.55%
合計		31.51%
組入銘柄数		112銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+22.92%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+20.34%となりました。当期の日本株式市場では、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託はこれらの銘柄を少なめに保有していたことはマイナスへの寄与となりました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇したREITを多めに保有していたことや、下落したITソフトウェアを少なめに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した総合商社を多めに保有していたことや、上昇した不動産を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、下落したファナック(6954)を少なめに保有していたことや上昇したソニー(6758)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したソフトバンク(9984)を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	92.73%
2 大阪証券取引所第一部	2.31%
3 東京証券取引所第二部	0.08%
4 大阪証券取引所第二部	0.05%
5 名古屋証券取引所第一部	0.01%
6 ジャスダック証券取引所	0.01%
7 名古屋証券取引所第二部	0.00%
8 現金等	4.82%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

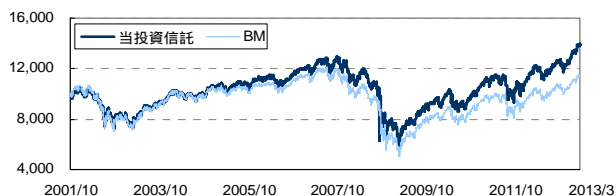
特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	4.11%	13.11%	11.35%	15.17%	40.60%	39.85%
BM	3.49%	10.58%	8.27%	11.45%	32.28%	15.13%
差	0.62%	2.53%	3.09%	3.72%	8.31%	24.72%

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S & P 500種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 エネルギー	11.06%
2 医薬品バイオテクノロジー	9.95%
3 ソフトウェア・サービス	9.29%
4 資本財	7.72%
5 食品・飲料・タバコ	7.26%
6 各種金融	6.18%
7 ヘルスケア機器・サービス	5.58%
8 テクノロジー・ハードウェア	5.40%
9 その他業種	36.18%
10 現金等	1.38%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 PFIZER INC	アメリカ	医薬品バイオテクノロジー	2.67%
2 JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	各種金融	2.27%
3 CHEVRON CORP	アメリカ	エネルギー	2.26%
4 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.25%
5 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	2.21%
6 GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	1.59%
7 WAL-MART STORES INC	アメリカ	食品・生活必需品小売	1.57%
8 ORACLE CORPORATION	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.53%
9 HOME DEPOT INC	アメリカ	小売	1.32%
10 JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品バイオテクノロジー	1.29%
合計			18.95%
組入銘柄数			218銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+13.11%となりました。一方、ベンチマークであるS & P 500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前四半期末比+10.58%となりました。

当期の米国株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較したときに割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落したコンピューターを少なめに保有していたことや上昇した石油販売を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した防衛関連を多めに保有していたことや上昇したその他金融を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、下落したテクノロジーのAPPLEを少なめに保有していたことや上昇したエネルギーのMARATHON PETROLEUMを多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落したソフトウェアのORACLEを多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

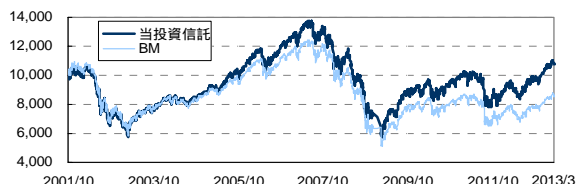
特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	1.49%	6.30%	11.22%	16.94%	14.50%	7.92%
BM	1.33%	5.41%	9.99%	11.85%	3.63%	14.37%
差	0.16%	0.89%	1.24%	5.08%	10.88%	22.29%

マザーファンド受益証券の詳細情報 国別構成比率

順位	国名	マザーファンド
1	イギリス	28.85%
2	フランス	15.21%
3	スイス	13.12%
4	ドイツ	12.64%
5	オランダ	7.04%
6	スウェーデン	5.26%
7	スペイン	4.17%
8	ベルギー	2.53%
9	その他の国	9.03%
10	現金等	2.14%
合計		100.00%

組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	3.21%
2	SANOFI	フランス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.60%
3	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	2.26%
4	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	2.10%
5	ROCHE HOLDING AG-GENUSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.72%
6	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.71%
7	ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	オランダ	エネルギー	1.59%
8	VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	1.46%
9	ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.40%
10	BP PLC	イギリス	エネルギー	1.39%
合計				19.45%
組入銘柄数				188銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+6.30%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前四半期末比+5.41%となりました。

当期の欧州株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較したときに割安であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落した金属および石油メジャーを少なめに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した小売を多めに保有していたことや上昇した建築資材を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇した小売のDELHAIZE GROUP(ベルギー)および食品のNESTLE(スイス)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した自動車のVOLKSWAGEN(ドイツ)および素材のLANXESS(ドイツ)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

セクター別構成比率

順位	セクター	マザーファンド
1	食品・飲料・タバコ	11.43%
2	医薬品・バイオテクノ・ライフ	10.70%
3	銀行	9.05%
4	資本財	8.96%
5	素材	7.80%
6	エネルギー	7.75%
7	電気通信サービス	6.61%
8	保険	6.07%
9	その他業種	29.49%
10	現金等	2.14%
合計		100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

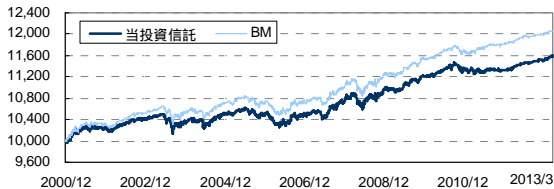
特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年3月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.12%	0.60%	0.77%	1.77%	3.21%	15.78%
BM	0.03%	0.55%	0.67%	1.64%	4.37%	20.55%
差	0.09%	0.05%	0.10%	0.13%	1.16%	4.77%

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.49年	99.25%
国債	5.05年	74.45%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	2.22年	5.96%
金融債	1.65年	0.97%
社債等	3.06年	17.87%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.00年	0.75%
合計	4.46年	100.00%

* 債券先物を含みます。

「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	88.18%
A	11.82%
BBB	0.00%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

海外格付機関の格付を優先します。
海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第303回利付国債(10年)	日本	1.400%	2019年9月20日	Aa3	AA-	7.01%
2	第300回利付国債(10年)	日本	1.500%	2019年3月20日	Aa3	AA-	6.16%
3	第106回利付国債(5年)	日本	0.200%	2017年9月20日	Aa3	AA-	5.97%
4	第277回利付国債(10年)	日本	1.600%	2016年3月20日	Aa3	AA-	5.77%
5	第101回利付国債(5年)	日本	0.400%	2016年12月20日	Aa3	AA-	3.98%
6	第109回利付国債(5年)	日本	0.100%	2018年3月20日	Aa3	AA-	3.35%
7	第295回利付国債(10年)	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	3.08%
8	第305回利付国債(10年)	日本	1.300%	2019年12月20日	Aa3	AA-	3.08%
9	第298回利付国債(10年)	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	3.07%
10	第4回 日本政策投資銀行	日本	1.158%	2014年6月20日	Aa3	A+	2.91%
合計							44.39%
組入銘柄数							46銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.23%
平均クーポン	1.21%
平均残存期間	4.60

「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+0.60%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前四半期末比+0.55%となりました。

当四半期は、安倍政権下での大胆な金融緩和とデフレ脱却への期待が高まる中で、株高と円安が進行し、3月21日には日経平均株価が約4年半ぶりに12,600円台を上回り、円ドル相場は3月末に94円前半まで円安が進みました。しかしながら、当四半期に発表された日本の経済指標は強弱入り混じる内容で、輸入額は、前年同月比で1月が7.3%、2月が11.9%と増加傾向となる一方、輸出は1月の6.4%増の後、2月は2.9%となりました。また、1月の機械受注は前月比13.1%と4ヶ月ぶりのマイナスとなっており、設備投資の回復には時間がかかることが明らかとなったほか、2ヶ月連続でプラスだった鉱工業生産は、2月にはスマートフォン向け電子部品の減産などにより前月比0.1%となりました。当四半期の新発10年国債利回りは0.235%低下の0.560%となりました。3月28日には0.510%と2003年6月以来の低い水準を更新しました。当四半期の当投資信託は、イールドカーブ戦略において平坦化を見込む戦略を維持して、残存期間が長い債券の保有が奏功し、ベンチマークを上回りました。新体制となった日銀による4月からの新たな金融緩和策により、日本国債利回りはさらに低位のまま推移するとみられています。特に短期債にかけてイールドカーブは平坦化するとみられ、今後の当投資信託の方針としては、イールドカーブ戦略では平坦化を見込む戦略を維持し、デュレーション戦略はベンチマークと同等の水準とする予定です。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証が有しています。
東証は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S & P 500種株価指数」とは、スタンダード・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・プアーズ社に帰属しています。S & P 500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S & P 500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

変額保険のリスクについて

市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>